

東京文化短大 ○内藤道子 日本リサーチ社会開発 菊地章人
相模女大短大 三宅栄子

目的 生活の質の向上が課題となった今日、労働時間の短縮、女性の社会進出、情報化、国際化、都市化、技術革新などの社会の潮流を受けて、21世紀初頭には勤労者のライフスタイルはどのように変化しているのだろうか。また家計はどのような状態にあるのだろうか。本研究は、2005年の家計構造を示すことを目標として、ライフステージと家計収入と家計支出を相互連関させて推計するシミュレーション方法を開発することを目的としており、第2報では家計支出の推計方法に関して報告する。

方法 家計収支を2005年までの年々の連続的な変化で捉えることができるように、推計対象世帯を特定化し、「首都圏の断層世代」の世帯を推計対象モデルとした。このモデル世帯について、まず収入の年々の変化およびライフステージの変化を推計し、家計支出は基本的にはこれらに規定されながら構成されるという視点で関連づけた。この推計を行うにあたり、世帯構成とライフステージに関しては人口動態統計等を用い、支出に関しては実態値の使用を前提とし、全国消費実態調査、家計調査等を用いて検討を行った。

結果 家計支出推計の基幹となるデータには、属性（収入階級別、世帯類型別、住宅の所有別など）のクロス集計が多い1989年全国消費実態調査を用い、この調査に総務府家計調査に基づいた賞与等に関する修正を加えることにより、年間の平均支出の推計が可能であることがわかった。さらに推計にあたって必要な補足・将来予測等は、できるだけ公的機関、民間機関の調査結果を用いるようにした。